

「生き方押し付けないで」

高知市 ひきこもりら支援へ講演



ひきこもりやホームレス支援の在り方を考えた講演会(高知市のオーテピア)

ひきこもりやホームレス支援の在り方を考える講演会が24日、高知市のオーテピア高知図書館で開かれた。県内の支援団体の代表者2人が対談し、「ひきこもりもホームレスも、もがいて葛藤している過程。ステレオタイプの生き方を押し付けてはいけない」などと呼びかけた。

ひきこもり当事者や家族を支える「エスポワール高知」の山田孝明さん(72)と、困窮者支援に取り組むNPOこうちネットホップの田中きよむ・高知県立大社会福祉学部教授(62)。山田さんが昨年末に出版した著書「ひきこもり仏たちの群像」に掲載された事例を中心に、支援に必要な視点を考えた。

35年にわたって支援活動が続ける山田さんは、周囲の人

間の「ソフト」(考え方)が大切だと指摘。自らを肯定的に見られるようになるには、他者から褒められることが一番大切だとし、「掛け値なく、かけがえない存在だということ」を伝えていく。この積み重ねがあれば、多くの人は自力で出てくる」と語った。

田中教授は、高知市中心街での夜回りや一時滞在施設の利用状況を説明。「ひきこもりとホームレスは、人との関係性に悩みを抱え、心の居場所がないという共通点がある」と語った。その上で、「外に出るべき」「働くべき」といった社会的な圧力が当事者をさらに追い詰めるとし、「決まり切った生き方を押し付ける社会の側に病理がないか。考えないといけない」と訴えた。

(新妻亮太)